

清友

No. 38

2012年10月

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541



朝霧高原(富士宮市)のススキ



9月15日、日比谷公会堂に全国から2千人が結集して開かれました。

主催者の日本高齢・退職者団体連合会(退職者連合)阿部会長は、「高齢者の暮らしと生命を守る取組みの強化へ向け、300万人組織を目指す」決意を示しま

集会終了後、熱中症が心配になるほどの厳しい残暑の中、東電本店前での抗議のシュプレヒコールを含め、旧都庁跡まで元気にデモ行進しました。

今年も9月の高齢者連続行動が行われ、清掃退職者会も元気に参加しました。

■地公四単産・地公退高齢者集会

9月14日に神田一ツ橋の日本教育会館で開催され、現退一致の行動により、国民からかけ離れていく政治状況を改善するために努力しようという基調を確認しました。

記念講演は、朝日新聞記者太田啓之さんの「年金不信からの脱却Ⅱ年金の本当の姿と将来像」。「年金は破綻する」という考えから取材を進めた結果、年金不信をふりまく元凶はメディアと一部の悪質な研究者であることが分かったと、報告されました。(講演内容は3面)

であり、会場から連帯の拍手が鳴り止みませんでした。

集会は、「地域に根ざした強靱な組織づくりをめざし、高齢者が安心して暮らせ、若者が未来に希望を持てる平和な日本をつくるために、中央・地方、現退一致でがんばる」(集会アピール)ことを確認し、終了しました。

「憲法9条を守れ! 原発はいらない」をスローガンに

全国高齢者集会



全国高齢者集会後の銀座デモ

した。

地域からの意見発表は、①持続可能な脱原発社会へ向けた取組み(福島)、②橋下大阪市長包囲の取組み(大阪)、③普天間基地撤去・オスプレイ配備反対の闘い(沖縄)でした。まさに焦眉の課題

9月27日に第5回三役会をもち、10月5日に開催する幹事会提案議案の検討とあわせて、10周年記念事業、役員選考基準、組織拡大へ向けた取り組みの基調など、中長期的課題について検討しました。

●周年記念事業をどうするか

退職者会も来年、再建5周年を迎えます。5周年記念は再建から時間も経っていないので、少し早いような気がします。10周年は行いたいと思っています。

そのためには今から財政措置も考えなければなりません。どのような記念事業が可能か、都本部や都庁退、他単会の行事等を研究しようと思っています。

●役員選考基準を創るべきか否か

「退職者会の役員はどのようにして決まっているのか」という意見があります。確かに役員選挙規定はありませんし、役員選考の基準的なものはありません。

「この種の団体の役員は何となく決まるんだよ」という意

見もありますが、退職者会をより大きく活発にしていくなために、役員がどのように決まるのかという仕組みをきちんとしておくことも必要ではないかと思っています。

三役会で中・長期的課題を検討

三役会で検討を始めました。できれば来年の総会までに形を示したいと考えています。

●組織拡大の課題は何か

自治退本部は「再任用・再雇用全員を退職者会の会員にすることを、基本組織と話し合う」よう指示しています。退職者会組織の拡大は再任用・再雇用組合員の組織化が重要です。これらを含め、組織拡大へ向けて何をすべきか、三役会で真剣に悩みながら議論しています。

●当面の課題

その他、会計予算の補正（科目間調整）や、都庁退親睦交流会の費用負担見直し、東京清掃の賃金確定闘争応援等も検討しました。

都退協 定期総会

政局が激変しても運動の基調は変わらないことを確認

8月10日、都労連に対応する退職者組織の東京都退職者協議会（都退協）は、都庁職会議室で第42回定期総会を開催し、清掃退職者会から代議員として北條会長と庄司事務局長が参加しました。

事務局長が提案するしきたりになっていきます。

開会にあたり花輪副会長（都庁退）は、「今の政治は先が見えない情勢にあり、国会がいつ解散になってもおかしくない。我々の要求実現に向けて共に前に進めていきたい」と挨拶。続いて、昨年の東日本大震災の被災者を悼み、参加者一同黙祷を捧げました。

方針提案にあたり斎藤事務局長（東水退）は、「都退協は政局が激変しても運動の基調は変わらず、現・退一致を基本に、地公退の一員として退職者連合、東京高退連とも連携して退職者・高齢者のよりよい生活を目指す活動や、脱原発をめざす運動に参加し、活動を進める。国会学習会や要求等、高退連と一致できることは引続き取組みます。」という考え方を示しました。これが都退協の基本姿勢です。

その後、総会宣言と決議を採択し、スローガンを確認、山本会長の音頭で「団結ガンバロー」を三唱、総会を終了しました。

都退協の議事の進め方は独特で、活動経過報告、決算報告、活動方針案、予算案をすべて、

都退協は、対政府・国会対策など、退職者運動の取組みをけん引してきました。今総会で、この伝統を踏まえつつ、さらに一歩前進していくことが確認されました。

年金不信からの脱出

不信あおるメディア・トンデモ学者 経済停滞ならば痛み分配の覚悟も必要

9月14日に開催された地公四単産・地公退高齢者集会の記念講演は、年金問題のエキスパートである朝日新聞・太田啓之記者による「年金不信からの脱出—年金の本当の姿と将来像」がテーマでした。年金不信をあおるメディアや学者を舌鋒鋭く斬る一方、経済停滞が続けば年金減額や増税必至という厳しい指摘も。

年金不信はなぜ広がったのか？

年金不信が広がった原因は、次の5つ。①少子高齢化、②野党時代の民主党の年金破綻キャンペーン、③行政の不手際・不祥事、④不信をあおるメディア、⑤トンデモ学者たちの存在。

(1)現在の年金財政見通しは将来の出生率を1・26で設計。昨年の出生率は1・39。「50年後、現役世代11人で高齢者1人を支える」のは無理の論もあるが、過去数十年間、「働いている人一人が働いていない人一人を支える」という割合で、ほぼ一定。

(2)鳩山元首相は「年金がダメになると」と語りかけが政権交代

年金の安定的維持へ向けて考えよう

(1)公的年金のミッション
「働けなくなつた高齢者を養う」という社会の基本的インフラのひとつ。高齢者が暮らせなくなれば、社会自体が破綻してしまう。経済原則より上位のルール。

(2)高齢化の進行と年金
高齢化が進んでも、経済が順調に発展すれば十分な年金を渡せるが、経済の停滞と高齢化が同時進行すると、年金水準の確保は極めて難しくなる。

(3)公的年金問題の「仕分け」



公的年金を巡る大問題は、「少子化」「高齢化」「デフレ経済」、中間問題は「国民年金保険料の未納」、「専業主婦の3号問題」、小問題は、「年金記録問題」、「天下り施設への保険料流用」。

(4)年金額引下げ改革の理由
年金は賃金に連動している。デフレ経済で賃金下落し、保険料収入が減少。年金は「特例水準」と「デフレ時のマクロ経済スライド非実施」により高止まり。「世代間連帯」の点で問題を残している。

(5)年金と政治—今後の見通し
①民主党の抜本改革案は、再浮上の見通しはない。
②「維新の会」の「積立方式化、掛け捨て」は論外。
③来年早々、年金財政見通しの再計算（5年に1度の再計算）。年金水準は「現役世代の5割」が将来的に維持できないという試算結果になる公算が大。

(6)年金の将来像
①年金は高齢者の生活の支えであり、生活するに足る額は今後保障されると考えてよい。
②よほどのことがない限り、急激な減額もない。
③一方、経済の停滞が続けば、現役世代の負担増、年金減額や、さらなる増税も避けられない。

許すな再稼働！なくそう原発！ とめよう雇用破壊！ つくろう戦争と貧困のない社会を！ 10・28 団結まつり

1047名の不当解雇撤回を求めて国家的不当労働行為と闘い続けた国鉄闘争は終結しましたが、雇用破壊が進み、貧困と格差はますます拡大しています。国鉄闘争を継承し、戦争と格差のない社会の実現をめざすため、今年も「団結まつり」が開かれ、規模は縮小（例年より参加者約100人）が、積極的な参加を希望します。

団結まつりの案内

- 日時 10月28日（日）
10時～15時
- 場所 亀戸中央公園A地区



昨年の団結まつり
(東京清掃労働組合副委員長の音頭で団結ガンバロー)

オスプレイはいらない！ 沖縄に連帯し1万人が国会包囲



日米政府は、欠陥機オスプレイの普天間基地配備を強行しました。頻発する事故を「人為的ミスが原因」としていますが、「人為的ミス」で墜落するのならば、事故防止は困難ということになります。

沖縄の意思は9月9日の10万人県民大会ではっきり示されました。沖縄の運動に連帯し、東京でも1万人が結集して国会を包囲する同時アクションが取られました。

「原発もオスプレイも根っこは同じ」です。オスプレイの沖縄・普天間基地配備は断じて許せません。

退職者会 活動日誌

- ▼7月18日の第2回幹事会以降9月27日の第5回三役会までの7月18日、「社会保障・税の一体改革と退職者連合の取組み」をテーマに夏期学習交流会。講師は木村退職者連合事務局長。24名参加。参加者から分りやすくよかったとの感想をいただきました。終了後楽しく懇親会。内容は機関紙8月号に掲載。
- ▼7月23日、第1回企画部会。お花見ウォーキング、秋の街歩き、落語鑑賞会などを検討。落語鑑賞会を今年度中に行いたいと思っています。
- ▼7月23日、第4回三役会。組織運営と財政運営のあり方、役員選出のあり方、会員拡大の戦略などについて時間をかけて議論。
- ▼8月10日、東京都退職者協議会第42回定期総会が都庁職会議室で開催され、代議員として北條会長と庄司事務局長が参加。総会の内容は別記の報告参照。
- ▼8月12日、江東区のティアラこうとうで「脱原発労働者集会」。小出裕章氏の講演「放射能汚染の現実を超えて」など。退職者会から7名参加。集会の様子は機関紙9月号に報告。
- ▼8月31日、自治退都本部第3回幹事会が都本部会議室で開かれ、庄司事務局長（常幹）と小林事務局次長（幹事）が参加。10月26日に開く定期総会の議案等を検討。
- ▼9月14日、日本教育会館で地公四単産・地公退高齢者集会。柳副会長、戸枝会計、渡辺幹事が参加。集会の様子は別記の報告参照。
- ▼9月15日、日比谷公会堂で全国高齢者集会。戸張副会長、岩淵会計監査、古口幹事、戸枝会計（取材）が参加。集会後、鍛冶橋（旧都庁）まで元気にデモ。集会の様子は別記の報告参照。
- ▼9月20日、都庁退組織強化対策会議・単会会長会議が自治労都庁職会議室で開かれ、北條会長が参加。組織拡大は個別的に具体的に呼びかけていくことが肝要ということを確認しました。
- ▼9月27日、第5回三役会。幹事会提案議案の検討にあわせて、組織運営と財政運営のあり方、役員選出のあり方、会員拡大の戦略などについて時間をかけて議論。
- ▼事務局会議・事務業務は6回。主な課題は、当面の行動企画、秋期学習交流会案内と集約、親睦旅行案内、東京清掃定期大会報告書原稿作成、返還郵便切手・機関紙等定例連絡発送の取組みでした。
- ▼その他、自治退都本部常任行動として、庄司事務局長が都本部常任幹事会に参加しています。